

## 特別支援学級 音楽科学習指導案

令和元年10月15日（火曜日）第 時限（さざんか2組）

指導者（T1）平賀 真司

（T2）長谷川 義洋

1 単元 曲の盛り上がりを表現しよう

2 指導計画（8時間完了）2／8

時 数	1	2	3	4	5	6	7	8
以下の学習内容を、1チャック10分程度、1パーツ5分程度に組み合わせて行う（1時間4チャックまで）								
チャ ック の 内 容	速度の 感じに 合った 表現	楽曲の雰 囲気を感じ 取った 表現	旋律の 感じに 合った 表現	拍の流れや フレーズを 感じ取った 表現	音楽を形づく っている要素 を生かした音 楽づくり	反復や変 化を感じ 取った表 現	楽曲の特 徴を感じ 取った表 現	音の重なり や響き を感じ取 った表現

3 本時の指導

(1) 目標 曲の盛り上がりを表現する。

(2) 準備 CD、音楽デッキ

(3) 本研究との関わり

本学級の児童は音楽がすきで、音楽が流れると自然に体が動き、楽しんでいる様子が見られる。A児は、音楽が流れると体を速く動かすが、自分にとって気持ちがいいリズムで体を動かしているだけで、音楽を形づくっている要素を感じ取っているとは言えない。

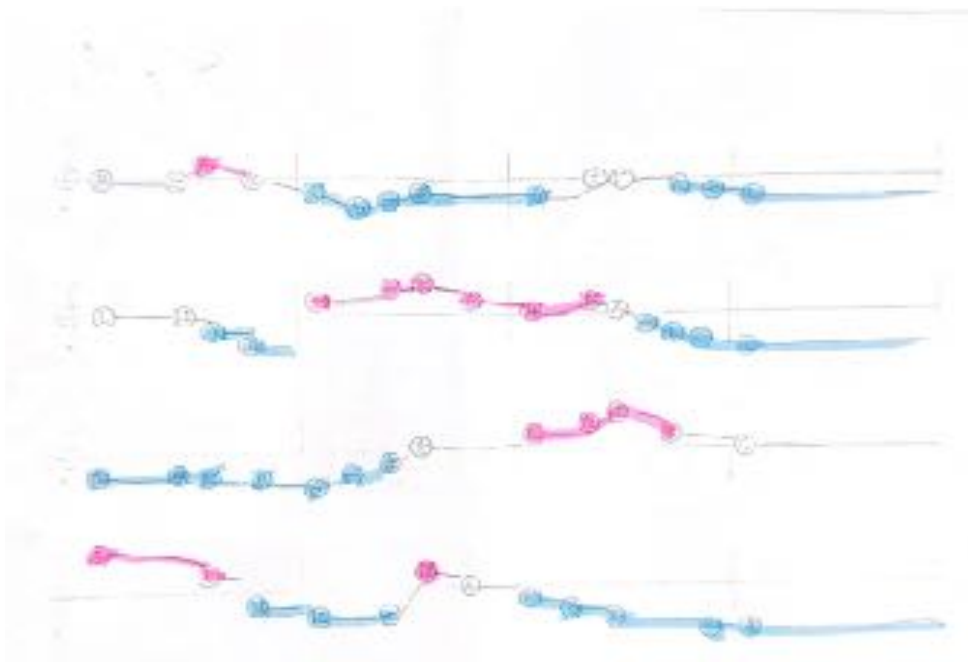
1学期の学習で、音楽を聴いて身体表現をすることによって、速度、拍、反復、音色、リズム、変化を感じ取ることができるようになり、ゲームや歌を通して、自然に呼びかけとこたえができるようになりした。児童は、速度の違いを身体表現だけではなく、楽器の強弱で表現したり、同じ速度の楽曲でも、音色や拍の流れの違いによって楽曲の気分の違いを感じ取り、楽曲によって身体表現の工夫を変えたりするなど、音楽を形づくっている要素を感じ取っている様子が見られた。

2学期の学習では、音階やフレーズを感じ取って身体表現したり、歌ったりする活動を行った。活動の様子から、A児が歌う時は大きな声で歌うことはできているが、強弱をつけて曲の盛り上がり表現することに苦手意識を感じた。強弱については、1学期の実践で、曲の速度の変化をリコーダーの強弱で表現したり、大きな音が聴こえたときには飛び上がって身体表現したりするなど、音の強弱は感じ取っているように思える。

本単元の学習では、旋律の動きを自分で身体表現することや、楽譜を見たり、友達の身体表現を観察したりするなどの視覚的支援によって音の強弱を感じ取り、歌唱するときに小さな声を出そうと意識できるようにし、曲の盛り上がり表現できるようにすることを主として進める。学習の進め方は前時までと同じく、単元の学習内容を1時間の授業に1チャック10分程度、1パーツ5分程度に組み合わせ、8時間かけて達成する。

(4) 指導過程

時間 配分	学習活動	指導上の留意点



2分	1 本時の説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習内容を児童に伝える。</li> <li>○ 4つのチャンクに分ける。</li> </ul>
15分	2 曲に合わせて体を動かそう	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 一つ一つ伝えながら板書し、色分けして囲む。</li> <li>○ 「かくれんぼ」で呼びかけとこたえを使ってゲームを楽しむ。(呼びかけは青、こたえは黄で掲示)</li> <li>○ 「森のくまさん」で呼びかけとこたえを楽しむ。</li> <li>○ 「幸せなら手をたたこう」で呼びかけと答えを楽しむ。</li> </ul>

**【ふじさん 旋律の図形楽譜】**